

## 令和7年度 学校経営計画及び学校評価

## 1 めざす学校像

百年の伝統と実績の上に立ち、グローバル社会において真のリーダーとして世界に貢献できる人物を育成する学校。

- ◎ 基礎から発展まで「生徒が思考する授業」、「力のつく授業」を展開し、3年間を見通した進路指導により生徒の希望進路を実現する。
- ◎ 日々の授業、行事、国際交流を通して、「自主・自律」を体現する生徒を育てる。
- ◎ 地域に信頼され尊敬される品格と豊かな国際感覚、人権感覚を有する生徒を育てる。

## 2 中期的目標

世界に貢献できる人物を育てるため、生徒につけたい力を定め、その実現へ向けた取組を行う。

## 【5つのつけたい力 (Five Sumiyoshi Qualities)】

- 1 将来を見通せる深い洞察力と世界を見据えた広い視野
- 2 異文化を受け入れることのできる包容力と人権感覚
- 3 理念を行動に移せる実行力と他者と共に取り組む協働力
- 4 世界で通用する語学力とコミュニケーション能力
- 5 柔軟な発想と探究心により課題を発見し解決する力

## 1 学力向上と進路実現

- (1) 生徒の自己実現を図るための学力、体力、気力の育成
  - ア 教員間で連携し、教科・科目横断型授業に取り組む。
  - イ 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善を推進し、探究活動の手法を一般教科にも取り入れる。
  - ウ 3年間を見通した進路指導を着実に実行する。

※ 国公立大学合格者 100 名以上 (R4 76 名、R5 60 名、R6 76 名)

## 2 国際・科学高校としての質的な深化と成果の普及・発信

- (1) 国際文化科と総合科学科のさらなる進化・発展
  - ア 両学科が共に取り組む課題研究を深化させる。
  - イ ルーブリック評価によって生徒の思考力、表現力等を向上させる。
- (2) 世界で通用する語学力とコミュニケーション能力の育成
  - ア 授業や行事を通じた「使える英語力」をさらに向上させる。
  - イ 対面とオンラインを有効に活用し、国内外の高校生と交流を深める。
- (3) SSH、ユネスコスクールの取組みの充実
  - ア ①課題研究の質的向上 ②国際共同研究 ③小中高大・産学連携 ④卒業生による「住高支援ネットワーク」の充実
  - イ ユネスコスクール加盟校として平和学習、人権学習を充実させる。

※ 学校教育自己診断「命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会がある」90%以上を維持する。(R4 93 %、 R5 94%、 R6 91%)

- (4) 取組みの成果を他校に普及し、積極的な広報活動により本校の魅力、特色を発信する。
  - ア 校内外の学校説明会で本校の特色を発信する。
  - イ 近隣の小中学校を行事に招待し、連携を強化する。
  - ウ 国内外の高校に連携を呼びかけ、オンラインや対面で課題研究の発表会や共同研究を進める。

※ 学校教育自己診断「この学校には他の学校にない特色がある」95%以上を維持 (R4 98% R5 99% R6 98%)

## 3 地域で信頼され尊敬される品格と豊かな国際感覚、人権感覚の育成

- (1) 人権を尊重する意識の向上
  - ア 人権 HR をさらに充実させるとともに、研修や情報共有を通して教員の見識を高め、きめ細かな相談支援体制を確立させる。
- (2) 「自主・自律」を体現できる生徒の育成
  - ア 自治会活動、部活動等を通して、生徒が自主的かつ責任ある行動ができるように指導する。
  - イ 挨拶・清掃・遅刻指導を通して、生徒が自らマナーや規範、「自律」の意味について考える機会を与える。

※ 学校教育自己診断「人権について学ぶ機会がある」90%以上を維持する。(R4 96%、 R5 95%、R6 94%)

※ 学校教育自己診断「先生の指導は適切である」90%以上 (R4 93%、R5 89%、R6 89%)

## 【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和 年 月実施分]	学校運営協議会からの意見

## 3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R6年度値]	自己評価
1 学力向上と進路実現	<p>(1)生徒の自己実現を図るための学力、体力、気力の育成 ア 教員間で連携による教科・科目横断型授業。</p> <p>イ 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善を推進、探究活動の手法を普及。</p> <p>ウ 3年間を見通した進路指導。</p>	<p>ア・各教科の「つきたい力」と「具体的方策」を全教員で共有し、教科を横断した授業実施に活用する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>STEP UP LABO (授業力向上チーム) が中心となって公開授業を通じた授業力向上に取り組む。</li> <li>ICT 推進委員会が中心となって1人1台端末の体制を整備する。</li> </ul> <p>イ・進路指導部が主導し、学年団と連携の上、3年間を見通した進路指導を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>進路指導部が学校全体で調整、策定した進学講習を系統的に実施する。</li> <li>模擬試験後、進路指導部と学年団が連携して分析会を実施し、模試の有効活用を促進する。</li> <li>働き方改革の取組みとして、部活動指導に関する方針を遵守し、業務の効率化を図り、教員の業務の平準化を促進する。</li> </ul>	<p>ア・教科別の公開授業週間を活用し、外部へ公開する。また、外部の助言者を招き、授業力向上をめざす校内研修を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>公開授業週間を年に2回以上設定し、個々の授業改善に努める。[3回]</li> <li>授業アンケート「授業内容に興味・関心を持つことができた」「知識や技能が身に付いた」3.3以上を維持する。[3.57、3.58]</li> <li>学校教育自己診断(教員)「各年度の教育計画の作成に当たって、教職員で話し合っている」を80%に[74%]</li> <li>教科・科目横断型授業を5回以上実施。[5回]</li> <li>学校教育自己診断「1人1台端末を効果的に活用している」80%に[77%]</li> </ul> <p>イ・系統的な進路HRを5回以上実施する。[8回]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>進学講習を3年生は20講座以上[24講座]、2、1年生は15講座以上[7講座]実施する。</li> <li>模擬試験後の分析会を5回以上実施する。[5回]</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>時間外勤務時間(一人当たり平均)を5%減少させる。[355時間で5%減(4月～3月)]</li> <li>年間時間外勤務時間720時間を超える教員を5名以内にする。[3人(4月～3月)]</li> </ul>	
2 国際・科学高校としての質的な深化と成果の普及・発信	<p>(1)国際文化科と総合科学科のさらなる進化・発展 ア 両学科による課題研究を深化させる。</p> <p>イ ルーブリック評価による生徒の思考力、表現力等の向上。</p> <p>(2)世界で通用する語学力とコミュニケーション能力の育成 ア 授業や行事を通じた「使える英語力」をさらに向上。 イ 対面とオンラインによる国内外の高校生との交流。</p> <p>(3)SSH、ユネスコスクールの取り組みの充実 ア①課題研究の質的向上 ②国際共同研究 ③小中高大・産学連携 ④「住高支援ネットワーク」の充実 イ 平和学習、人権学習の充実。</p> <p>(4)取り組みの成果の普及、本校の魅力、特色を発信 ア校内外の学校説明会で本校の特色を発信。 イ 近隣の小中学校との行事連携。</p>	<p>(1) ア・R6年度からの教育課程改定により、両学科が同時に「総合的な探究の時間」の活動をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>探究サイクルを一般教科等に取り入れ、課題解決型の授業を実施する。</li> </ul> <p>イ・SSHの課題研究で用いているルーブリック評価を普及させるとともに、評価についての研究を進める。</p> <p>(2) ア・暗誦、ディベート等の指導やSE(スーパーイングリッシュ)、SK(スーパーコリアン)等の授業、英語合宿、スピーチコンテスト等の行事を引き続き系統的に実施する。</p> <p>(3) ア・海外の高校との国際共同研究やオンライン交流を広げる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「住高支援ネットワーク」による課題研究の助言の活用を進める。</li> <li>府外のSSH指定校との交流を広げ、活発に情報共有を図る。</li> </ul> <p>イ・SDGsをテーマとした「総合的な探究の時間」、ユネスコスクール行事等を中心に平和学習、人権学習を充実させる。</p> <p>(4) ア・校内の学校説明会を生徒にも参加させ、校外の説明会にも積極的に参加。 イ・近隣の小学校を校内の行事に招待し、本校生徒とともに活動してもらう。</p>	<p>(1) ア・国際文化科1・2年生の「総合的な探究の時間」で課題研究を実施し、その発表会を年間各学年1回以上実施する。[3回]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>探究サイクルを取り入れた教科の公開授業または事例報告を年間2回以上実施する。[0回]</li> </ul> <p>イ 学校教育自己診断「学習の評価は納得できる」90%以上を維持する。[93%]</p> <p>学校教育自己診断(教員)「評価の在り方について、話し合う機会がある」を90%をめざす。[80%]</p> <p>(2) ア・1年生70人以上、2年生で100人以上がCEFR B1以上となるようにする。[1年生91人、2年生98人]</p> <p>(3) ア・国際共同研究を実施し、年間1回成果発表会を実施する。[1回]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「住高支援ネットワーク」の活用を年3回以上[3回]</li> <li>府外のSSH連携校を5校以上[4校]</li> <li>共同研究を進める海外の高校を3校以上[3校]</li> </ul> <p>イ・学校教育自己診断「命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会がある」90%以上を維持する。[91%]</p> <p>(4) ア・校内の学校説明会を3回以上実施。[3回]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>校外の学校説明会に5回以上参加。[10回]</li> <li>学校教育自己診断「この学校には他の学校にない特色がある」95%以上を維持[98%]</li> </ul> <p>イ・小・中学校の生徒を招待する行事を5回以上実施[5回]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ホームページの「住高ブログ」を200回以上投稿[約200回]</li> <li>インスタグラムを100回以上投稿[約150回]</li> </ul>	

<p>3 地域で信頼され尊敬される品格と豊かな国際感覚、人権感覚の育成</p>	<p>(1)人権を尊重する意識の向上</p> <p>(2)「自主・自律」を体現できる生徒の育成</p>	<p>(1) ア 人権 HR をさらに充実させるとともに、研修や情報共有を通して教員の見識を高め、きめ細かな相談支援体制を確立させる。</p> <p>(2) ア 自治会活動、部活動等を通して、生徒が自主的かつ責任ある行動ができるように指導する。</p> <p>イ ・挨拶・清掃・遅刻指導を通して、生徒が自らマナーや規範、「自律」の意味について考える機会を与える。 ・学校は公共の場であることを自覚し、どのクラスも教室、廊下等で身の回りの物を整理し、快適に学習できるよう指導する。</p>	<p>(1) ア・学校教育自己診断「人権について学ぶ機会がある」90%以上を維持する。[94%] ・学校教育自己診断「担任以外にも相談できる先生がいる」80%以上にする。[78%]</p> <p>(2) ア・学校教育自己診断「学校行事には楽しく参加している」90%以上を維持する。[96%]</p> <p>イ・学校教育自己診断「学校生活についての先生の指導は適切である」85%以上を維持する。[89%] ・学校教育自己診断「学校の施設・設備は、学習環境面で満足できる」85%以上に[83%]</p>	
---	---	---	---	--